

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



秋の夕暮れ

(9月15日、午後5時、大教会神苑より撮影)

教祖130年祭に向かって

成人目標

おつとめ奉仕人の増員

立教175年
10月号

「年祭活動

推進委員会」発足

教祖130年祭二年千日に向け

9・21付

大教会では、教祖130年祭三年千日に向け、9月21日付で「年祭活動推進委員会」を発足。委員長、委員は次の通り(敬称略)。

- ・委員長 田中隆之。
- ・委員 上原きよ子・門脇元教・上原志郎・山野弘実・吉岡誠一郎・虫明立生・武内正美・佐藤真孝・上原繁次。

笠岡大教会史勉強会を開催

修養科教養掛員を対象に

教養掛(谷内伸自主任)では9月21日、午後4時から大教会会議室で、上原繁道笠岡大教会前史料部長を講師に「教養掛笠岡大教会史勉強会」を開催、同掛員15人が参加した。

これまで修養科生への大教会史講話は、大教会での修了講習時に上原史料部長が行っていたが、本年4月の大教会人事の刷新に伴い、上原前史料

部長の、笠岡の次代を担う教養掛に講話を引き継いでもらいたいとの意向から谷内同主任に依頼。結果、講習会用の冊子を作製し実施となった。今後、大教会史講話は修養科中、教養掛が行う。

冊子は『神の方でハなかなか大イセふやで』上原佐吉・さとの信仰の周辺——のタイトルでB5判、時代ごとの白黒写真入りで149頁。序から始まり

「天理教笠岡大教会略史」「初代・上原」と伝「笠岡の三大おさしづについて」の構成となっている。「笠岡三大おさしづ」を除いては上原前部長が折々に執筆し、これまで『かさおか』『みちびとも』に掲載したものを使用。

勉強会では上原前部長が、冊子をテキストに目次に添って大教会史の重要点を約40分間、話した。

また冊子の作製について「修養科生の教養掛員、特に三ヶ月間の人達は、大教会の次代信仰者育成の中核に在る人達と考える時、この人達に大教会の元一日を熟知して頂いておく事が大切。そして何度もこの冊子を読んで、その上に自らのこれらの信仰を立ち上げ、笠岡の信仰の伝承に役立てて貰いたい。また三ヶ月間の教養掛から、その期の一ヶ月ごとの教養掛にも伝えて頂きたい」と教



テキストとして使用された冊子

養掛員への期待が込められている。

更に「笠岡の教勢の基本は『笠岡三大おさしづ』によって形作られた。私達は常にこのおさしづを節に遭うごとに思案させて頂く覚悟をもっておかなければならない。笠岡の道に繋がるよふぼくの心構え、使命をこのおさしづは常に私達の心に語りかけてくれる」と現在の笠岡の基盤となるおさしづの重要性を強調。

そして『温故知新』の心でしっかりと学んで欲しい」と望んでいる。

参加者の一人は「149頁もある冊子を参考に修養科生に大教会史を伝えることは正直、大変なことだと思う。しかし笠岡の歩みを学ぶことは後に続く者にとっては大事。まず自ら何度も読み返してしっかりと理解し、伝える努力をしたい」と話していた。

「諭達巡教」

10月26日本部秋季大祭において「諭達」が
 発布されます。それに伴い左記の通り諭達巡
 教が行われます。

- ・日時 11月20日(火)午後1時～3時
- ・巡教員 富松幹禎本部員
- ・対象 大教会役員・准役員・おつとめ奉
 仕人・部内教会長夫妻・布教所長
- ・服装 大教会役員は羽織袴
 それ以外はハッピにネクタイ

よふぼく勉強会開催

テーマは「霊祭について」

9月月次祭後

育成部(吉岡壽部長)では9月21日、大教会9月
 月次祭後、会議室で「よふぼく勉強会」を開催、
 30人が参加した。今回のテーマは「霊祭について」。
 講師の上原繁道先生は、まず本席様の笠岡大教
 会お入り込み、笠岡に頂いたおさしづに添った神
 殿普請、倍加運動、芦津大教会から分離、教会移



「霊祭について」講話される上原先生

転建築―などを通し、大教会の初代、二代、三
 代、四代の歴代会長の道すがらを話された。
 そして「大教会の霊祭は役員だけが拝するので
 ではなく、大教会の祖霊殿には大教会に御功績を
 残された霊様をお祀りしていることから、部内の
 教会、また笠岡に繋がる方々が先人を偲ぶ心を
 持つておつとめ下さい。その上から現会長になり、
 霊祭のおつとめに部内教会長もつとめるように

なった。また各教会、布教所、家庭でもそれぞれ
 の先代の伏せ込みの御功績を振り返らせて頂き、
 その上に立って歩む筋道を立てると共に、しっか
 りと霊様の心に添ってつとめることが大切」と霊
 祭をつとめる意義について話された。

引き続き約30分、同テーマについての質疑応答
 が行われ、参加者は熱心に受講した。

勉強会に先立ち月次祭終了後、神殿で同部おた
 すけ掛員より一人におさづけが取り次がれた。な
 お10月、12月(11月は休講)の同勉強会の詳細につ
 いては本誌「かさおか」8月21日号参考。

委員長後継者講習会

開催

9・23 大教会で

婦人会

婦人会笠岡支部(上原きよ子支部長)では9月23
 日、大教会で委員長後継者講習会を開催、60人
 (後継者14人、婦人会係員29人、託児17人)が参加
 した。

午前9時半、開始。上原きよ子支部長が講話。
 引き続き、後継者2人が感話をした。

午後からは先輩委員部長の話し、ねり合い、ひ
 のきしんなどが行われ、お互いの成人を誓い合い
 午後3時、閉会した。

温故知新

いきいきエピソード 18

岡本久作先生②

岡本久作先生は明治36年6月監督教師という名目で神邊に派遣され、明治40年4月神邊出張所3代所長に就任した。明治42年3月本教の一派独立で神邊支教会長となり、大正14年9月13日支教会長を辞任し笠岡分教会へ帰り、以後理事として尽力された。

大正10年10月、教祖40年祭提唱の諭達第13号が發布され、笠岡では大正11年3月、上原繁雄三代会長のもと教祖40年祭準備委員が任命され、大正15年1月の3回にわたる教祖40年祭に向けての教会倍加運動が始まる。

出張所長、支教会長時代の教会負債返済の苦労は前回に述べた。この頃の岡本先生の教会での生活状態を笠岡分教会史から抜粋してみる。

「古さびた、冷やかな教会に落ち着いた氏は、月次祭にもろくろく集まらぬ信者の復活に寝食を忘れて運んで運んで運び抜いた。懐中僅かに二銭を持って、服部、府中、上下、油木、東城等、往復四十里の行程を巡回布教した。而して

二銭はそのままにあったということも、甲山の南久井の路傍で、お地藏様にお供えしてあった赤飯をそっと頂戴して一刻を凌いだというのも、今は昔の物語として残っている。―中略―

主立つ者が多少残っていたが、この人々も別に相談する事もなく、自発的に負債整理のために遠地の労働に出掛けるなどして、遂に教会には留守居の者さえ居ないまでに寂れ果てた。これでは神様に申し訳ないと笠岡に残していた家族を呼び寄せ布教に勤しんだ。妻・伊志女は日々親神様への御用の傍ら両親への孝養と二児の養育を引き受け、手内職をして生計を樹てた。」

さて教祖四十年祭活動の中で神邊の動きであるが、教会倍加運動に向けて懸命の活動を展開し、十三名称が新設された。当時の岡山教務支庁管内(中国5県)では初めての事であった。

こうした名称新設運動に岡本会長はじめ岸本亀三郎氏をはじめとする役員の方々は一歩一歩につとめたのであるが、大正十四年三月、年祭を一年後に控えて、岡本先生は腸チフスの身上となった。これは突然に会長一人が身上となった訳ではなく、それより前、岡本の妻・伊志女、さらに岡本喜代子、岡本千鶴子、岡本久則、また住込青年の海内茂、高木一夫、その他高木ミ

サヨ、笹尾栄、藤井君子らが次々と患った。久作先生は一番後であったが、これを機に、先生は笠岡三代会長の命のまま、会長を岸本亀三郎氏に渡して笠岡へ引き揚げた。この間の事情は、三代会長の聞き書きがあるので、引用する。

「大正十四年の初め頃やったか、久作さんの息子の久則と家内の伊志さんが身上おさわりを頂いた。それもなかなかの大病やったが、とにかくご守護頂いたんや。その後、春頃やったか、夏頃やったか岡本久作さんが笠岡で病気になるんや。腸チフスや。それに肺炎を併発してどうもこうもいかんという事になったんや。その当時、上原の家のかかり付けの医者森先生に診察して貰うと、法定伝染病だから隔離するか、あるいは避病院(隔離病舎)に入院させるか」という事になったんや。岡崎軍治さんが傍に居て、久作さんは役員室の間に寝ていたんやが、「ここは奥の間で誰も入りませんから隔離しているのも同然です」という事から森先生が「それでは避病院に入れなくても結構です」という事になった。久作さんは教会の役員室にそのままおったんやが、「これはえらい事になってきたな」とワシは思った。森先生はその後毎日来てくれていた。次第に病気は悪く

なつていった。ある日、身上迫つてきたので軍治さんに「あんたはどなたですか」と森先生が尋ねた。「ワシはこれの伯父です」と軍治さんが言うと「すぐ濃い親戚を集める手筈をしてほしい」という事になったんや。これは、もうあかんという事や。これを聞いて軍治さんがワシのところへとんで来たんや。それでワシは軍治さんの知らせを聞いて考えた。岡本さんが死んだらどうなるか、死んだらどうでも笠岡へ帰つて来る。岡本さんはもともと笠岡から神邊へ教会の負債整理に行ったんや。整理に行ったら、それが済んだら笠岡へ帰つて来るというのが、これが筋や。ところが、岡本さんが悪くなる以前、藤井九右衛門さんや桑田音吉さんから神邊の役員に聞いてみても、「久則さんが大きくなつたら会長を譲つてもらつても結構です」というように会長変更の事については何も言わへんのや。それで、わしは久作さんの身上になるまでにどうしたらええか考えとつた訳や。それで岡本さんが身上になつていよいよあかん、医者が手を放すという事になつて、わしはハッと心に思う事があったもんやから、高田松太郎、岡崎軍治、浅野彌三郎、この三人に寄つてもらつて、

「わしは岡本さんの身上について神様をお願いさして貰う。どういうお願いや言うことは、わしは言えん。けれども、あんたら共に三日のお願いづとめさして貰うんやから、——会長がどういうお願いをするのや知りません。けども、会長の心通りにどうぞ何かしるしを見せて頂きたい——という事をお願いして貰いたい。どないや」と言うたら結構ですという事になった。その心に添うてわしらもお願いさせて貰う、という事で三日三夜のお願いづとめをさしてもうた訳や。そしてお願いづとめの後で、岡本さんの枕元で、「あんた今夢の中でな、耳が聞こえんのか。けどな、わしはあんたの心に話をするのやで。神様に今お願いさせて頂いたが、そのお願いの筋でご守護頂く事になったら、わしの心積もりの治め方するで。承知しなはれや」と話した。翌日、森先生が来て診察をした後で聞くと、「昨日と比べてちいと具合がよろしいですな」という事やつた。そこへ藤井九右衛門さんが来て、「会長さん、うちの会長の身上はどうでしょうか」と聞くから、「あんた、どない思うんや」と聞いたら、「わしは何も考えとりません」という事や。それで、「神邊の教会に今、理事連中おるかいな」と聞くと、「おります」という事や。「もし出張している者あつた

ら、呼び寄せといてんか」と頼んだ。それで二日目が見えた。三日目や。森先生に診察して貰うと、「不思議な事です。もうこれで持ち直しました。」と言う事や。それからわしは三人(高田、浅野、岡崎)理事を呼んで、願いの筋を打ち明けたんや。この病気で岡本さんが出直したら、どうしても会長を変更にやあかん。いや、会長を変更に頂いて命をおいて頂きたい。これが親神さまの思召に添うのでしたら、その通り運ばせて頂きますから、どうぞお願い致します。そうお願いしたんやと話した。では会長変更すると言ったら、後は誰ですかと聞くから、「会長代理の岸本さんやないか。これは笠岡の二代会長からちゃんと決めてあるんや」と話した。そして三日のお願いがすんで、高田さんと浅野さんに運んでもらうた。神邊の教会ではびっくりしとつたけど、それから岡本さんはずっと良くなつてきたんや。それから言うたら、命が二十年延びたんやで。その頃、久則はまだ子供やつたんや。それが大きくなって嫁さん貰うて子供までできて、その後久作さんは出直したという事になるねん。そういう事やつたんや。ところが翌年が教祖四十年祭やろ。会長ならば正服装て今日のように登殿参拝する事がで

きた。役員なら教服という事に発表もあって、それで他の役員が「四十年祭済んで会長変更という事にしたらどうでしょうか」と言うたんですよ。岡本さんに会長として四十年祭を勤めさせてやろうという事や。それでわしは、「岡本さんはな、あの時出直したもんやで。神様の思召で、会長変更という事で(寿命)を伸ばしてもろうたんや。だから今さらそんな事はできません。」と言うて頑張って教祖四十年祭までに会長の変更をして、岸本さんが神邊の会長として登殿参拝させてもろうたんや。それで、岡本さんの心に何とも言えない割り切れないものがあつたらしい。ところが、四十年祭済んでしばらくして、岡本さんがわしの処へ来て、「有り難う御座いました。わしの命は会長さんに助けて頂いたんです。有り難うございました。」と言うて御礼に来たがな。「何でやな、久作さん」言うて聞くと、年を同じくして某系統のある教会の初代が出直して息子が幼かったもんですよ、初代会長の実弟が一時会長を持った。その人が身上になって、それでその教会の最上級教会長が行って会長変更の話をしたんや。そして「承知しました」という事で身上は助かった。ところが、その後で同じ事なら四十年祭がすんで変更のお願いさして貰いたいと言うた

ら、最上級教会の会長が、「うんうん、そうやなあ」言うたんで変更を伸ばした。すると初代の実弟はころつと出直してしもた。それを岡本さんが聞いたんやな。うちの役員が岡本さんに同情して、会長変更を伸ばしてほしいというのを、わしがイカン言うて頑張った事が命をおいてもろた言うことを、その時知ったんや。それで改めて御礼に来たんや。人間的に考えたら、神邊の教会を一生懸命どん底の中を丹精し、教会の負債整理をし部内名称もできた、力も出来て来た。だからその後、ずっと会長という事で構わない訳や。けれど理の上から教会の治め方を考えてみると、やはり上級から出向いた整理会長は整理会長や。適宜、いい後任者ができたら、上級に帰ると言う事が理の建前や。(昭和五十一年二月二十八日聞き手は上原繁道)

笠岡三代会長は当時未だ新任の若い会長で、当時の錚々たる役員を前に理の治め方を進めていくのは大変であつたらうと思われる。思えばこの四十年祭から五十年祭の十年が笠岡の道が大きく飛躍するかしないかの時であつたようである。その最初の節とも言うべき岡本久作先生の身上ご守護であつた。

次回はその四十年祭から五十年祭の歩みを振り返つて見たい。

(大教会前史料部長)

第860期修養科募集要項

*修養科期間

立教175年12月1日～立教176年2月27日

*教 養 掛

3ヶ月間	中 島 誠 治	(大教会役員・鶴山分教会長)
1ヶ月目	藤 井 正 仁	(福富士分教会長)
2ヶ月目	山 田 敏 教	(大教会准役員・甲井分教会前会長)
3ヶ月目	藤 本 芳 久	(東水島分教会長)

*募集要項

- ・志願者は、12月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・11月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、3月1日午前10時に解散。

談話室



私の「生きる」生きる」

大教会 谷本篤子

お陰様で11月27日に57歳にならせていただきま
す。どうして女性が年令を公表するのか首をか
しげる方も多いと思います。

実は、平成10年7月30日(42歳)、遅れた定期検
診に行くと、思いもよらぬ病名を告げられました。
主治医から「セカンドオピニオンを求めて下さ
ってもかまいません」と言われました。

主治医の話しを伝えるのが精一杯で家族や母と
じっくり相談出来ないうちに、自分自身も半信半
疑のまま、8月7日に手術をしました。なんとか
無事に手術は終わりました。

ガンという事もあり、入院生活が長くなりまし
た。長い入院を知ったおぼが母から病名を聞き、
身内でお願いづとめをしようと大教会に親戚が集
まった日には、何故か、用事が有って神殿にいら
した多くの信者さんも、一緒に加わって下さった
そうです。

高校生だった娘は『別席を運ぶ』という約束を
して用木にならせていただきました。

長い入院生活中は、今は亡き理の親が「笠岡便
が有るので、病院へは少し歩くと来られるから、
私の行き帰りは心配しないで」と言われ、毎日の
ように顔を見に来て下さり、やさしい言葉をかけ
て下さいました。主治医に聞いて下さったり、抗
ガン剤を打つ時にも何度か立ち合って下さったの
で、とても心強く感じ、私は点滴の一滴一滴落ち
るのを心おだやかに見つめていました。

多くの方々の『真心』と『真実』をいただいて
ワンクールの治療を終え、翌年の1月に退院しま
した。

これまで私は、二人の子供の成長を自分の命の
区切りとし、神様に「どうか、娘の高校の卒業式
まで生かして下さい」、次に「2人の子供が社会
に出るまで生かして下さい」とお願いしてきまし
た。

今までに息子も母親が生かしていただいている
お礼にと『別席』を運んでくれ用木にならせてい
ただいております。

現在、娘は社会人となり11年目、どうにか自立
して欲しいと18才から親元から離していた息子も
社会人となり2年目になりました。

理の親は「とても親孝行な息子さんでしたね。
親としていろいろ心配された事も多かったと思

ますが、それが貴女の生きる力になったでしょ
う。」と言っておりました。

加齢に伴う老化現象とか、体を使う仕事をして
いるので当然とか、息子も頑張っている、少々
の痛みは我慢、我慢と、自分で思い込もうとして
いたところ、今年6月に股関節の激痛で身動きが
出来なくなりました。

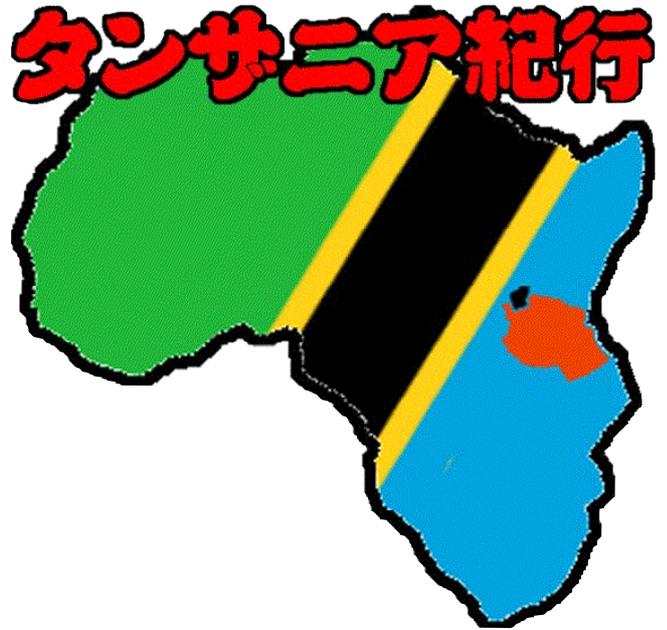
この事を講社祭に來られた理の親にお話ししま
した。今回も厳しい論しはありませんでした。來
ていただいたお礼のメールをお送りすると、こん
な返信がありました。

「良い思案」も含めて、その話しを人様にお話
し出来れば「にをいがけ」になります。第一に「良
い思案」が出来るようになる事、次に人様にお話
し出来るようになる事。それが身上・事情をお見
せ下さる親神様のお望みであり、神様へのご恩報
じになるかと存じます。——と有りました。
(今、新たな節を迎えて)

何事も切羽詰まらなないと分からないのを恥じる
とともに「感謝しています。」

という言葉だけになっ
ていた自分自身の反省
として、とても理の親
のお気持ちがありがた
くてこの原稿となりま
した。





5. タンザニア布教を終えて

今回でようやく最後となるが、日本に帰国してから拙文を書きつらねていくうちに、私なりの信仰のあり方が次第に鮮やかになってきた。原稿の依頼を受けて、当初は正直、荷の重いものを背負わされたと、それをマイナスに捉えていたが、今では、執筆を通じて自分のこれまでの信仰を見直し整理することができたと感謝している。そこで、最終回はタンザニア布教を通じて得た私なりの悟りを述べてみたいと思う。

ところで、この道に引き寄せられ入信した先人の多くが、病を助けられたことをきっかけとして

いることは、天理教の信者ならば周知のことだと思う。この入信のきっかけの割合をデータの数値として示すことができないのは残念であるが、読者の皆様はこれに同意して下さるものとして話を進めることにする。

さて前にも述べたことだが、現在の日本とタンザニアでは、神なるものに対峙する姿勢が全く異なるという点について、もう一度よく考えてみたいと思う。衣食住そして医療の満ち足りた日本とそうでないタンザニアでは、助かりを神様に願う姿勢が自ずと異なるのは当然なのである。私はタンザニア滞在中、そのことを身をもって体験することができた。

実は、ソンゲアの小学校を訪問した際に、私は周囲の求めに応じて大学時代に手ほどきを受けた空手を披露したのだが、続けざまに四カ所の学校で演武を行ったことも手伝って、途中で右足を痛めてしまった。その痛みは非常に激しく、情けないことに歩くのがやつとの状態であった。その日の日程をどうにか終えて、ホテルに到着するや否や、志郎先生におさづけを取次いで頂いた。その際に、「深谷忠政先生は、お取次ぎの前に時間があるなら、その方の痛むところを時間をかけてさすってあげなさいと言われていた。」と言いながら、私の痛む箇所を丁寧にさすって下さった。そしてその後におさづけを取次いで頂いた。当地の

方には失礼な話だが、ソンゲアの町には日本人が病院と呼べるような病院はどこにもない。またホテルにも、熱を持った足を冷やす氷もないし、当然、薬局のようなものもないので湿布や痛み止めの薬も手に入らない。異国の地におけるこのような状況の中で取次いで頂いたおさづけは、あたかも無力な子どもが苦しんでいるのを母親が温かい手で、よしよしと撫でてくれる感覚に似たものであった。正直なところ、おさづけを受ける側の心境が、日本でのそれとは相当に異なるものである



タンザニアの食事



孤児院にて衣料配布

と感じられた。ちなみに、症状の悪化を覚悟して迎えた翌朝、予想とは裏腹に痛みが少し治まっていた。その朝、用木のマungaさん宅での朝食を終えると志郎先生は彼に、私の右足におさづけを取次ぐようにと伝えた。ところが彼は、前日の過ぎた晩酌が抜けきらない顔に無邪気な笑みを浮かべながら、おさづけの手振りや唱和のしかたを忘れてしまったと弁明した。それに対して志郎先生はどうされるのだろうと窺っていると、何とマユ

ンガさんの隣でおさづけの手振りを見せて唱和を始められた。それに続いてマungaさんもそれを横目にただどしく唱和しながら、私の患部に取次ぎを行った。一瞬唖然としたが、そのようなお世辞にも体の良いおさづけとは言えない様であつたにもかかわらず、熱を帯びたような温かい掌で触れられた時には、親のぬくもりをまざまざと実感させられた。異郷にて、神にすがりもたれることによつて得られた安穩は、これまでに味わつたことのないものであつた。

日本から遠く離れたタンザニアの地で取次いで頂いたおさづけは生涯忘れ得ぬ格別のものとなつたが、置かれる状況によつておさづけはかくも有り難いものになるのだと痛感させられた。それからもう一つ、このようにおさづけが状況依存的であると思えると同時に、おさづけは誰がどこで取次いでも、常に教祖はそこにおいでになるのだという普遍的なものも痛切に感じることができた。

実は、この最後の稿は“これからのお道論”みたいなことを述べ

てみようと思つていたのだが、結局止めることにした。それは、タンザニアでの私の体験は、考えることよりも感じることの方が圧倒的に多かつたと思えたからである。タンザニア布教は、知に走り、論を求める私の信仰を戒めてくれたかけがえない旅であつた。

こころの詩

▼天理教道友社発行『天理時報』、「時報歌壇」・「時報俳壇」より転載

▽笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

9月23日付 福満分教会 福島悦子さん

三陸のリアス海岸想いっつ
くねりくねりと鶏頭を描く

9月30日付 海松ヶ岡分教会 藤井光子さん

初採りの秋茄子一本供えけり

▼養徳社発行『陽気』誌十月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「情」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀 詠 東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

理か情か思案にくれて神意問う

▼表紙写真 (吉岡輝昭かさおか編集委員)

教会おとまり会の報告

▼大恵山隊

実施日 平成24年3月18日(日)～20日(火)

2泊3日

参加者数 少年会員3名(1名は初日のみ)

育成会員9名(3名は初日のみ)

合計12名

プログラム

18日 教会集合・三殿礼拝

(日) 15:00 高屋分教会参拝(満席順序参拝)

16:30 大教会参拝(満席順序参拝)

18:00 夕勤め

19:00 夕食・ゲーム大会

22:00 就寝

19日 おぢばがえりへ教会から出発

(月) 5:00 やかた東棟周辺散策(午前席中)

9:00 昼食・みんなでサッカーゲーム

12:00 やかた東棟周辺散策(午後席中)

13:00 本部参拝・回廊ひのきしん

15:00 本部参拝・回廊ひのきしん

16:00 詰所到着

18:00 本部で記念撮影

夕食・詰所おたのしみ行事
(おさづけの理拝戴中)



みんなで記念撮影
(西礼拝場前)



まだ眠いよー
(おぢばへ向かう車中)



お兄さん達はゲームの神様だよ
(笠岡詰所)

20日 8:00 起床・朝食
22:00 就寝

(火) 9:00 詰所おたのしみ行事(午前席中)

12:00 昼食・天理出発

17:00 教会到着・三殿例会・解散

所感 3名の満席、2名の中席のお兄さん

達と一緒に、初めて子供達だけのおぢばがえ

りをする事が出来た。今年のこどもおぢばが

えりへの参加につながるおとまり会となった。

お兄さん達とゲームや食事をしてとても楽しそ

うであった。(結果、今年のこどもおぢばがえ

りに2人は参加してくれた。)

▼備中隊

実施日 平成24年7月4日～5日

参加者数 少年会員2名 育成会員2名

合計4名

プログラム 教会のふんいきになじませるため泊

まりました。

所感 素直に前進を考えています。

▼真金隊

実施日 平成24年8月6日(月)～7日(火)

参加者数 少年会員2名 育成会員3名

合計5名

プログラム

6日 16:00 集合

芦加茂隊



▼芦加茂隊

実施日 平成24年8月6日～7日
 参加者数 少年会員12名(おとまり5名)
 育成会員7名(おとまり2名)
 合計19名

所感 小さい子供がいるということは家の
 中が和やかになって良かった。

7日 18:00 夕食
 21:00 夕づとめ
 7:00 起床・おつとめ
 8:00 就寝
 9:00 遊び
 解 散

所感 おとまり会の準備大変でしたが育成
 人の手だすけにより出来ました。子供達に絵手
 紙をならわせました。のびのびと大変うまく出

7日 6:00 朝食(パン)・後かたづけ
 9:00 ひのきしん
 11:00 絵手紙教室(参加者5人)
 解 散

プログラム

6日 10:00 祭典参拝
 12:00 お昼食(カレー)
 祭典後のひのきしん
 16:00 夕食準備・夕食(バーベキュー)
 18:30 夕づとめ
 花火・入浴
 朝づとめ

▼高屋隊

実施日 平成24年8月7日(火)～8日(水)
 参加者数 少年会員12名 育成会員6名
 合計18名

プログラム

7日 16:00 集 合

18:30 夕づとめ
 花 火
 就 寝
 22:00 起 床
 6:00 朝 食
 8:30 天神峽へ
 水球・バーベキュー

来ました。素直な心をのばしてやりたいと思
 います。

所 感

おとまり会は基本的にあまり行事を
 入れず、自由にさせています。その方が子供は
 楽しいみたいです。

▼廣町隊

実施日 平成24年8月8日～9日
 参加者数 少年会員4名 育成会員4名

合計8名
プログラム

8日

夕食

夕づとめ・お話

花火・自由・入浴

9日

朝づとめ

ラジオ体操

朝食準備・朝食・後片付け

勉強・プールへ

昼食・後片付け・ひのきしん

解散

所感

子供達の習い事が多く、参加者が少なかったが、めばえの子も遊び仲間に入れてもらい、大喜こびだった。

親が忙しくなかなかプールへ連れて行く事が出来ないで、大変喜こばれた。

お泊りは、子供にとって楽しい行事だったよ
うだ。

継続しておとまり会が実施出来るよう努力したい。

▼稲瀬隊

実施日

平成24年8月10日～11日

参加者数

少年会員12名(小学7名・中学5名)

育成会員3名 合計15名

プログラム

稲瀬隊



10日

17:30 受付(部屋割り)

18:30 夕勤め・会長様 お話

19:00 夕食

20:00 入浴

21:00 お楽しみ行事(花火)

22:00 就寝

11日

6:00 起床・洗面

朝勤め

7:00 朝食・片付け

9:00 B B Q 準備(ひのきしん)

11:00 B B Q

12:30 片付け・そうじ

13:30 川遊び

16:00 会長様 お話
参拝・解散

▼福勇隊

実施日

平成24年8月11日～12日

参加者数

少年会員7名 育成会員5名

合計12名

プログラム

11日

10:00 月次祭参拝

直会(準備・後片付け)

夕づとめ

17:30 夕食(準備・後片付け)

19:00 花火

20:30 入浴

21:30 消灯

12日

6:00 起床

15:00 朝づとめ

7:00 草取りひのきしん
 30 朝食・後片付け
 8:30 おつとめ練習・鳴物練習
 9:30 夏休み宿題
 10:30 おやつタイム
 解散

所 感 教会月次祭に参拝出来てありがたいことでした。

▼坪生隊

実施日 平成24年8月12日(日)～13日(月)
 参加者数 少年会員5名 育成会員15名
 合計20名

プログラム

12日 10:00 集合
 30 礼拝・昼食準備(カレー作り)
 12:00 昼食
 13:00 川遊び(天神峡)
 18:00 夕づとめ・お話し
 30 バーベキュー
 20:00 花火
 22:00 消灯
 5:30 起床
 6:00 朝づとめ
 7:00 ひのきしん
 朝食

8:00 礼拝
 解散

所 感

本年は少年会員の参加者が非常に少なくどうなることかと思いましたが、夕づとめ後より高校生・大学生・社会人などがかけつけてくれバーベキュー・花火はその子達を中心になってやってくれ、少年会員達も大いに喜んでくれたように思います。又、毎年おとまり会出身の者が花火やおやつを持ち寄って、世話取りをしてくれるというありがたい姿を見せて頂いております。

▼久松隊

実施日 平成24年8月13日～14日
 参加者数 少年会員4名 育成会員5名
 合計9名

プログラム

13日 17:00 夕づとめ・お話し
 14日 6:00 朝食(バーベキュー)・一緒に入浴
 9:00 朝づとめ・お話し・後朝食
 ひのきしん
 10:00 解散

所 感 14日10:00から親子5人が都合で退会のため、終了しました。

小1・1人、未就学・4人でまだ十分な行事が出来ませんが、先の楽しみに頑張ります。あり

がとうございました。

▼稲倉隊

実施日 平成24年8月13日～14日
 参加者数 少年会員16名 育成会員17名
 合計33名

プログラム

13日 夕づとめ
 屋外バーベキュー・カラオケ大会
 14日 朝づとめ
 芳井天神峡川遊び・バーベキュー

16:00 解散

所 感

毎年、この時期に、クルゼイロドスール布教所より、3～4家族が月次祭参拝を兼ねて、川遊びを楽しみに帰って来られます。今年も3家族と信者さんの家族を含め大人数にての実施となりました。

朝から小雨が降っていましたが、そんな事は関係なく、早朝より場所取りに先発隊が出発し、着がえ用テント、休憩用テントを設置。早速、クルゼイロ布教所より持参の肉のかたまりとウインナによるバーベキューが始まりました。

▼高児島隊

実施日 平成24年8月15日(3泊4日)

実施日 平成24年8月18日～19日
参加者数 少年会員2名 育成会員3名

▼府中市隊

参加者数 少年会員4名 育成会員7名
合計11名
プログラム 3泊4日 別にプログラムらしいものはないが、朝夕のおつとめは時間どおりにつとめる。15日には瀬戸大橋を渡り高松の海につれて行く、等。



高見島隊

▼廣町隊

所感 小さい教会で楽しくつとめました。常連の少年会員が、高校リーダーとなり、まじめにしてくれる事がうれしく思います。少年会活動から続く学生会に喜んで運んでくれる事を望みます。

▼福富士隊

プログラム 地区の祭りへの参加と教会でのおつとめまなび。
所感 少年会員が少ないため、思う程も出来ない。
実施日 平成24年8月19日～20日
参加者数 少年会員7名 育成会員7名
合計14名
プログラム
19日 16:00 集 合
17:00 夕 食
18:30 夕づとめ・お話
19:00 トランプ大会
20日 6:00 起 床
30 朝づとめ・ひのきしん
7:15 朝 食
8:00 解 散

実施日 平成24年8月24日～25日
参加者数 少年会員3名 育成会員4名

▼品治隊

所感 親子でひのきしんさせて頂き、共にパンフレット配りをさせて頂きました。初めてではありませんが、なれる事も大事かなと思いました。お祭のみこしを引くひのきしんもさせて頂き、楽しみの多い1泊2日でした。大教会の月次祭には初めての参拝の子もいましたが、育成係として嬉しい事で、続けて実施したいと思います。

実施日 平成24年8月20日～21日
参加者数 少年会員4名 育成会員3名
合計7名
プログラム
20日 14:30 集 合
支部ハートクリンに参加
(ごみ拾い・パンフレット配布)
16:30 バーベキュー
18:30 甲山の祭に参加
22:00 入 浴
21日 大教会へ参拝
解 散

プログラム

合計7名

24日 18:00 夕づとめ・お話し

夕食

プチおたのしみ行事

(スーパードールすくい)

20:00 おつとめ練習

30 入浴

おたのしみ行事

22:00 就寝

25日 5:45 起床

6:00 朝づとめ

ビデオ鑑賞

45 朝食

7:15 ひのきしん

自由時間

9:00 自由解散

所感 日程があわず、10人余りの少年会員の参加の予定が残念ながら少なくなったが参加してくれた子は楽しくよるこんで帰ってくれました。

少年会員も中学生が増えて(年齢層が上がってきている)ので、おとまり会とあわせて又ちがった形のあつまりが出来ればと思います。

▼高丸隊

実施日

平成24年8月30日(木)～31日(金)

参加者数

少年会員3名 育成会員2名

合計5名

プログラム

30日 17:00 カレーを作る

(木) 18:00 夕食(カレー)

19:00 夕つとめ

30 花火をして楽しむ

20:30 入浴

21:30 就寝

31日 6:45 朝づとめ



高丸隊

(金) 7:30 朝食

9:00 頃 解散

所感 常に教会にいる子供2人と、その友達1人に泊ってもらって「おとまり会」とさせていただきました。

今回は、ひとりでも多くと、思わせていただいております。

▼鶴山隊

実施日 平成24年9月15日～16日

参加者数 少年会員3名 育成会員4名

合計7名

プログラム

15日 18:00 夕食

19:00 おつとめ・おはなし

散歩

20:00 入浴

21:00 就寝

16日 6:30 起床

7:00 朝づとめ

30 ひのきしん

8:30 おやつ

10:00 解散

所感 3人共、おとまり会で育った親の子です。しっかりとつながって信仰の道を歩んでもらいたいものです。



別席ひのきしん団参



平成24年11月23日(金) 祝日

正午より、東礼拝場にて拍子木を入れてのおつとめ。
おつとめ後、殿外に集合。大教会長様の挨拶後、境
内地にてひのきしん(雨天の場合、回廊ひのきしん)。
※別席者はおつとめ終了後、別席場へ

<布教部>

○本部直属特別ひのきしん

期 間 12月1日(土)～20日(木)まで
60歳未満の健康な男子1人

<海外部>

○海外布教推進講習会について

11月21日月次祭に合わせて行います。

講 師 本部准員 中西光造先生

(ブラジル伝道庁へ約25年間書記としてつとめる。)

<管理部>

○境内地剪定ひのきしん

期 間 10月～11月

諭達巡教が行われるため11月中旬位までには終えたいのでよろしくお
願います。

<育成部>

○よふぼく勉強会

9月21日、午後1時15分より「霊祭について」上原繁道陶山分教会長を講師に
行いました。講話後、質疑応答がありました。

<詰所掛>

○秋季大祭詰所受け入れひのきしんについて

今期、修養科生が多いため今回に限り、修養科生とひのきしん有志の方で行います。

立教百七十五年 九月月次祭 祭典役割表

控	胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地方	役割		講話	祭主		扈者			
													区分	区分		祭主	扈者				
三島	虫明好美	今川佐智子	高田賀代子	中村道徳	森本忠平	門脇元教	岡崎和夫	河原節喜	岡崎真一	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	岡本久善	大教会長様	高木昭祥	上原澄雄	中村剛	大教会長様	中村隆之	中村邦義
赤木素志	門脇加津	森本富美子	武内正美	内海史郎	横山逸郎	今川昌彦	西江昌直	吉岡誠一郎	浅野明教	高木孝子	佐藤香苗	上原順子	菅尾正治	谷内伸自	中村邦義	岡崎輝彦	田中隆之	吉岡壽	三島涉	赤木素志	指図方
	中村初美	谷内美知子	内海安子	虫内清明	武内清	上原浩	山野弘実	田林久嗣	森本忠善	横山小智	菅尾一美	岡崎豊子	杉原博之	中島誠治	岡本久善	山田敏教	上原志郎	佐藤道孝	三島涉	赤木素志	指図方
															十一月講話	海外布教推進講習会					

立教百七十五年 秋季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	地方	役割		講話	祭主		扈者				
											区分	区分		祭主	扈者					
菅尾一美	岡崎豊子	上原順子	高木昭祥	杉原博之	岡崎輝彦	谷内伸自	中島誠治	田中隆之	門脇加津	武内正美	大教会奥様	上原繁道	岡本久善	大教会長様	武内清明	三島涉	佐藤道孝	大教会長様	中村邦義	門脇元教
三島照美	横山小智	佐藤香苗	雲東分教会長	福春分教会長	森本忠善	弓ヶ濱分教会長	錦洋分教会長	福富士分教会長	谷内美知子	森本富美子	内海安子	福東分教会長	吉岡誠一郎	芦品分教会長	田林久嗣	福勇分教会長	瑞雲分教会長	上原浩	浅野明教	岡本久善
															指図方	上原浩				

九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には 一列子供かわいいの親心溢れる御守護により夏から秋への季節の移り替わりを感じる頃となり風の爽やかさや食卓の賑わいを味わえる等 日々結構に恙なく生活させて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます しかしながら昨年(2011年)の東日本大震災から一年半経った今尚三十四万人の方々が避難生活を余儀無くされている事を思うと手放しでは喜べません 私共は一日も早い復興を願うと共に今後の災害が起こらない事も願って親神様に少しでも喜び頂きたいものと 日々朝夕にかしものかりものの御礼を申し上げますと共にひのきしんに励み一人でも多くの人に思召を伝えるべくにいがけおたすけにと勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は理のお許しを戴いた月に一度の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心と救け心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをとめて九月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達が 自分のみならず教会に繋がるよふぼく信者や関わりのある人の分まで御礼申し上げるべく 相共に声高らかにお歌を唱和する真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいませようお願い申し上げます

さて今月(9月)はにいがけ強調の月とお聞かせ頂いておりますのでいつも増してにいがけに歩ませて頂いておりますが 月末二十八日から三十日に掛けては全教一斉ににいがけデーで特に二十八日は教会長路傍講演の日でございますので 教会長始めよふぼく信者一手一つの心で一人でも多くの人に親の思いを届けられるよう にいがけに邁進させて頂く所存でございます 又来月は 大祭月でございますので直轄教会へ大祭参拝させて頂き立教に込められた親心を再確認すると共に本年の心定め完遂と諭達御発布を受けての年祭活動を通して一人でも多くのおつとめ奉仕人を御守護頂く事を誓い合わせて頂く所存でございます 更には本日付けで年祭活動推進委員会を発足させて頂きました 来年からの本格的な年祭活動をより活発なものにさせて頂くべくしつかりと談じ合いを重ね目標であるおつとめ奉仕人増員に繋げて行く所存でございます

何卒親神様には お与え頂く旬の理を生かすべくたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に自由の御守護を賜り 親心の有難さとご恩報じの大切さに気付かせて頂いて世界中の人がおつとめ奉仕人となって陽気ぐらしの世の状が実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

|| 教会指令 ||

◎神殿建築願

高屋 分教会

☆奉告祭 立教178年5月31日

立教175年8月26日承認

◎任命・移転願

稲讃 分教会

*前任 下村 信義

*新任 北川 壮一



北川壮一氏

*移転元

香川県丸亀市富士見町五

丁目一六番一二号

*移転先

香川県丸亀市綾歌町富熊

一〇四一番地一

☆奉告祭

立教175年12月9日
立教175年8月26日承認

秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます 本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代會長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くに多刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人の神霊 歴代会長と共に笠岡の道を築いて下さいました役員部内教会長 教人 よふぼく 信者の神霊 諸々の神霊の前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

祖霊様方には親神様のいんねん見定めと教祖のお引き寄せを頂かれ早くからこの道をお通り下さいましたし かけてその道は 暗闇の中生い茂る藪をかき分けて進むようなもので決して通り易いものではありませんでした しかしその中いんねんの自覚の上 親神様教祖に凭れて心明るくたすけ一条の上に生きの限りに勤め切られました 今日お道の結構な姿をお見せ頂いておりますのは親神様教祖の御守護お導きの賜である事は申すまでもありませんが 又一つには祖霊様方のそうした真実の伏せ込み理作りの賜と朝夕に御礼申し上げつつ 御恩報じの思いを受け継ぎたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

分けても本日は秋の霊祭を執り行う日柄でございますのでおつとめ奉仕人並びに部内教会長代表の者 只今は親神様の御前にて心を揃えて陽気にてをどりを勤めさせて頂きました

又御前に旬の心づくしの物を供えありし日の面影を偲び御遺徳を称え言改めて御礼申し上げます 御覧下さい しまして祖霊様方にもお喜び下さいますようお願い申し上げます

さて来月二十六日 本部の秋の大祭に於いて教祖百三十年祭に向けての諭達御発布がなされます 引き続き直属教会への諭達巡教 続いて直属教会による部内巡教 続いて地方での講習会と年祭活動が進められて行きますが 笠岡ではその動きに応え 尚かつ目標でありますおつとめ奉仕人の増員を図るべく 昨日年祭活動推進委員会を発足させて頂きました これからしっかりと練り合い 話し合いを重ねさせて頂き 来年からの年祭活動を通して親神様教祖にお喜び頂き 安心して頂けるように精一杯たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂く所存でございますので 祖霊様方にも皆の真心をお受け取り頂きまして 一人でも多くのおつとめ奉仕人を御守護頂けるよう今まで以上のお見守りとお力添えの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

◎教人資格講習会修了者

立教175年10月11日終講
葦陽 笹尾光孝

◎本部食堂ひのきしん

自 立教175年10月1日
至 立教175年10月15日
吸江 西村理人

◎立教175年秋季大祭参拝

海松ヶ岡	吳照	芳井	陶山	ひろさと	興明	金浦	摩耶	陽備	弥高山	鶴山	久松	島根	神邊	高屋	福山
岡本久善	中村邦義	上原繁道	大教会長様	岡本久善	佐藤道孝	中村剛	上原繁道	大教会長様	吉岡壽	中村邦義	上原繁道	上原繁道	中村剛	大教会長様	大教会長様

立教175年 平成24年11月4日(日)

青年会笠岡分会総会

笠岡大教会
午前8時30分受付開始

午前の部
おつとめまなび
式典

午後の部
各種アトラクション
大抽選会

TENRIKYO
SEINENKAI
KASAOKABUNKAI
<http://kasaokabunkai.main.jp/>



前へ！前へ！

上明皆新輝照吸東
石山美濃陽江悠
下市部邑

佐岡吉上大吉中 大
藤本岡原教会岡村 教
道久繁奥奥 会
孝善壽道様壽義 奥
様

湯葦油驛島服東府
田陽木家中部城 中
原陽木家中部城 市
中吉大吉大佐岡 大
村岡教会岡教会 本
剛壽様壽様孝善 会
剛壽様壽様孝善 奥
剛壽様壽様孝善 久
剛壽様壽様孝善 奥
剛壽様壽様孝善 様

今回「かさおか」の編集掛員に任命して頂き大変感謝しています。十月号の「よりみち」に何か書いて下さいとの依頼を受けましたが、本日まで書くことが見つからず控えてまいりました。そんな中、今日、こんなことがありましたので書かせて頂きます。

いつも親しくさせて頂いている方が会うなり突然「会長なにか忘れていませんか」と言われ、いくら考えても思いつかず、大変なことをしたかと思いつつ「何でしたか」と聞き返すと、免許証を出して「私の誕生日ですよ」と言われてほっとしました。



備中 中村 剛
神昭 佐藤 孝
美之郷 中村 邦義
錦備 大教会 奥様
笠晴岡 本久善

何か意味があったのかなあと思いつつ「おめでとございませう」で終わらせて頂きました。

家に帰り、私の奥さんにこの話をすると「えっ、何の日か知らんのん」と言うと同時に「今日は結婚記念日」と言い、ここ十年、完全に忘れていました。思えば早きこと、二十四年目がきていました。

いつ別れても不思議のない日々でした。

しかし今はいつの間にか二人の子供も育ち、私達に注意するようになっていました。

ことわざに「縁は異なるもの味なもの」と言いますが、縁はなかなか切れませんよ。思い通りにならないのが円だとも思っています。

奥さんには、感謝！感謝！感謝！

子供たちには、ちよつとだけでも感謝、感謝、して欲しいところです。

人生、不思議なものです。

人生、よりみちも「けっこう、けっこう」

(み)